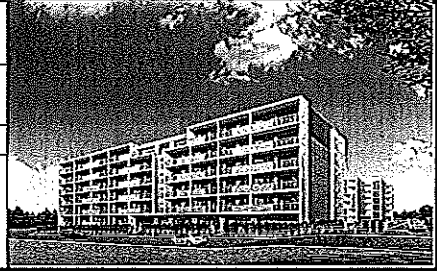


CASBEE® 新築 [簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観		
建物名称	京都大学宇治職員宿舎・宿泊施設	階数	地上6F	
建設地	京都府宇治市五ヶ庄京都大学宇治村	構造	RC造	
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	178人	
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760時間/年	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2012年4月	0.0	評価の実施日	2010年12月10日
敷地面積	214,718 m ²	作成者	都市環境設計 杉浦	
建築面積	765 m ²	確認日	2010年12月12日	
延床面積	3,668 m ²	確認者	都市環境設計 木村	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)								
<p>BEE = 1.2</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%: ★</p> <p>標準計算</p> <table border="1"> <tr> <td>①参照値</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>②建築物の取組み</td> <td>79%</td> </tr> <tr> <td>③上記②以外のオンサイト手法</td> <td>79%</td> </tr> <tr> <td>④上記+オフサイト手法</td> <td>79%</td> </tr> </table> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	①参照値	100%	②建築物の取組み	79%	③上記②以外のオンサイト手法	79%	④上記+オフサイト手法	79%	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>
①参照値	100%									
②建築物の取組み	79%									
③上記②以外のオンサイト手法	79%									
④上記+オフサイト手法	79%									

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
Q 環境品質		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 3.2</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 2.9</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 2.0</p>
LR 環境負荷低減性		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 3.8</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 3.4</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.2</p>

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
建物の熱負荷抑制を主に、以下に示す事項により、LCCO ₂ 排出抑制につとめ環境負荷低減に配慮する。		0
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
化学汚染物質対策に配慮する。	構造体の耐震性に配慮する。 躯体の耐用年数に配慮する。 仕上材の耐用年数に配慮する。 設備の更新性に配慮する。	標準的性能を確保する。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
建物の熱負荷抑制に配慮する。	節水性に配慮する。 リサイクル材の利用に配慮する。 部材の再生利用可能性向上に配慮する。	地球温暖化対策に配慮する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい